

食と農とむらを考える情報誌

ふるさと夢とやま

No.32

ふるさとウォッチング

ひとはね

氷見市一芻地区

かさやぶり

黒部市笠破地区

「生活スタイル」の変化が「野菜需要」を変える!

中山間地域チャレンジ支援事業

NPO法人が取り組む「有機農業の里づくり」プロジェクト

応援します!農山漁村の6次産業化

カモ親子の農村日記

散居の景観を巡る庄西用水の水路網 (砺波市・高岡市・小矢部市)

広がる、地産地消運動!

越中とやま食の王国フェスタ2013





水芭蕉園での清掃活動



水芭蕉園内

この会は地区の子供とその保護者会や老人会など、約60人ものメンバーで構成されており、デザインから苗植え作業まで行っています。地元住民が汗を流し、一つの目標に向かって作業することで、世代をこえた共通意識が生まれ、花壇は集落みんなの誇りとなりました。そして努力が実を結び、平成23年に「富山県花のまちづくりコンクール」で最優秀賞を受賞しました。一刎花壇愛好会代表の山外さんは、「毎年1500本前後の生花を使用し、心と花壇作りを心掛けています。例えば、メイン

一刎地区の花の見頃

- 水芭蕉
4月中旬～5月中旬
- ヒガンバナ
9月中旬～10月上旬
- 一刎花壇
7月中旬～9月中旬



ヒガンバナ



一刎の花壇

の一年草に宿根草を取り入れて体系的にするなど、一刎の皆さんと考えるオリジナルのデザインは毎年見栄え良く仕上がります」と話しています。
四季折々の風情と地元住民の細やかな気遣いを感じることができる水見市一刎地区に一度訪れてみてはいかがでしょうか。

平成20年より交流活動の一環として、水芭蕉園を起点に、地域内の名所や旧跡を巡り、里山の風景を楽しみながら歩く「水芭蕉ウォーキングin一刎」を開催しています。3キロメートルと6キロメートルのコースがあり、小中学生からお年寄りまでが参加できることから、リピーターも多く、近年では市内外から250人以上が参加するイベントにまで成長しました。当日は豚汁を振る舞ったり、地元で採れたワラビやフキノなどの山菜や、草餅、山野草、民芸品などの販売が行われており、ウォーキング後の楽しみの一つとなっています。また、通常は祭礼時のみ公開している八幡宮の蓮如上人の「名号」はこのイベントでも見物することができます。

人気イベント
「水芭蕉ウォーキング」

秋の散策に◎！
新名物ヒガンバナ

水芭蕉園では広い敷地内で四季を感じてもらうため、平成21年より県の「美の里保全活動支援事業」を受けて計3,000個近くのヒガンバナの球根を植えました。今では自然と株が増え、シーズンになると水芭蕉園の木道沿い約200メートルがヒガンバナでいっぱいになり、秋の散策にはオススメのスポットになっています。

一刎の花壇づくり

廃校となった旧一刎小学校の花壇作りは県内でも有名で、平成9年には林野庁の「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。その花壇を「一刎花壇愛好会」が引き継ぎ、現在でも花壇作りを行っています。



一刎地区

富山県農村環境創造基金

ふるさとウォッチング

FU.RU.SA.TO watching PART. 1



水辺の生き物たちが見られる水芭蕉園でウォーキング

「八幡宮」には、浄土真宗の布教や本願寺の再興で知られる「蓮如上人」が3日間滞在了たといふ言い伝



「妙好人のよの墓」案内看板

大自然に隠れた名所!! 名所!! 名所!!
一刎地区は富山県北西部の石川県境近く、標高150メートルから240メートルに位置する中山間地の集落です。のどかな里山風景が広がり、市の田園空間整備事業により整備された遊歩道は、縄文時代の集落遺跡である「前田遺跡」や「妙好人のよの墓」など地区に現存する多くの史跡を巡るコースになっており、山間のフレッシュな空気とあわせて楽しむことができます。毎年多くの観光客が訪れます。中でも氏神社

水芭蕉園の整備と住民の苦勞

一刎にはあちこちに湧水が出ていて、かつては水芭蕉が群生していたという言い伝えがありました。地元では、長い間この言い伝えを形にできないかという声がありましたが、なかなか実現には至りませんでした。そこで、地元住民でつくる「一刎活性化会」は、平成18年の一刎小学校廃校を期に、地元に残る伝説や史跡などの地域資源を地元活性化の起爆剤にするべく、市の事業を受けて周辺整備に取り組みすることを決意しました。



蓮如上人が滞在了たといわれる「八幡宮」

水見市の山間に位置する、一刎(ひとはね)地区。5月、トンボやメダカが謳歌する中、「一刎水芭蕉園」では水芭蕉が一面に咲き誇り、大勢の観光客が訪れます。一刎では、この「水芭蕉園」をはじめ、「史跡」や「ヒガンバナ」、「花壇」など、地域資源として多くのキーワードを抽出し、村おこしに役立ててきました。生まれ育った里山を大切にし、ひたむきな挑戦を続ける水見市一刎地区の取り組みを紹介します。

悠久ロマンと水芭蕉、水見市一刎地区

ひとはね



11月に行われる「布施谷まつり」

布施谷まつり
「むいっくろ」への取り組みは笠破集落周辺の田畑、池尻、福平集落へも広がり、4集落の住民らで組織する「布施谷ふるさと活性化委員会」が平成10年4月発足し、毎年11月に「布施谷まつり」を開催することとなりました。
「布施谷まつり」は、地域住民の協力を得て、春先から仕込んだ山菜加工品、新鮮な地元産野菜、収穫したそばに付加価値を付けた「よもぎそば」、木炭などを販売しています。布施谷地域の味覚等を求め、多くの人々が訪れる地域の「大イベント」として定着しています。
また、山菜料理を知らない若い世代のために、料理方法を書いたレシピの配布や実演販売など、住民たちの工夫を凝らした取り組みも行われています。



山菜加工

地域では、農作業が終わった後は炭焼きが盛んに行われていたことから、地元の高齢者が中心となり製炭組合

伝統技術の復活と地域文化の継承

耕作放棄地の再生
イベントの開催と呼応するようにして、農業についても話し合う機会が増え、4集落による集落営農組織を設立しました。さらに県単独事業の活用により、これまで人力では困難であった耕作放棄地に機械力を導入し、昔から地域で栽培されていたソバ栽培に力を入れるなど、再生作業に取り組んでいます。
耕作放棄地を抱える集落では、「現状維持するだけで精一杯」という雰囲気から、「確実に放棄地を減らせる」という雰囲気になり、電機柵の設置など鳥獣被害対策にも積極的に取り組んでいます。

「まつり」をはじめ、ソバ栽培等の活動による多くの人たちとの交流が、地域を元気にしています。
活動の継続や大臣賞受賞が、地域住民の「自分たちにも出来る」という「自信」「誇り」になっています。
今後も、中山間地域は、過疎化、高齢化、農業の担い手不足等が進展し、厳しい状況が続くと考えられますが、地域の素晴らしい資源に目を向け、再認識し、その価値観を次世代に伝えていく活動を、継続していくことが大変重要です。そして、笠破集落をはじめとす

活動の継続が自信と誇りに
これまでの取り組みが評価され、平成18年には布施谷ふるさと活性化委員会が、「豊かなむらづくり」農林水産大臣賞を受賞しました。
布施谷まつりは現在、約100名のボランティアの協力を得て開催されています。
「まつり」をはじめ、ソバ栽培等の活動による多くの人たちとの交流が、地域を元気にしています。
活動の継続や大臣賞受賞が、地域住民の「自分たちにも出来る」という「自信」「誇り」になっています。
今後も、中山間地域は、過疎化、高齢化、農業の担い手不足等が進展し、厳しい状況が続くと考えられますが、地域の素晴らしい資源に目を向け、再認識し、その価値観を次世代に伝えていく活動を、継続していくことが大変重要です。そして、笠破集落をはじめとす



小学生そば打ち体験

○第16回 布施谷まつり

開催 11月10日(日)
会場 東布施トレーニングセンター

富山県棚田地域水と土保全基金

FU.RU.SA.TO watching PART.2

黒部市

かざやぶり 笠破地区

ふるさとウォッチング



僧ヶ岳の雪絵。春、雪解けが進むと残雪によって笠をかぶった虚無僧が出現。雪絵と農作業との関わりは、地域の民謡「布施谷節」にも歌われています

布施谷節の一節

♪いつか春風より吹けば、
山の虚無僧も腰上げて、
目出度目出度の布施谷節を吹けば
田植えが近くなる♪

むいっくろ

過疎化、高齢化の進展に伴い、農業の担い手不足、耕作放棄地の発生等が深刻化している中で、平成4年度に布施川の12カ所の取水口を統合した笠破頭首工が完成したことを契機に、施設周辺の環境整備と「人・もの（棚田、水、山菜、自然）を利用した村おこし」への取り組みが議論され、地域住民の協働による「むいっくろ」が動き出しました。

みんなを支え合う、誇りと希望に満ちた郷づくり

笠破地区は、黒部市と魚津市の境を流れる布施川上流の中山間地域にあります。春の雪どけが進むと僧ヶ岳に現れる虚無僧の雪絵を目安に農作業を行う風習が今も残っています。
高齢化や、過疎化、農業の担い手の減少、鳥獣被害の発生など様々な問題を抱えながら、みんなを支え合い、地域の素晴らしい資源を再認識して、その価値観を次世代に伝えていくことが地域一丸で活性化に取り組んでいます。

る布施谷地域が従来から持っている相互扶助の力を大いに発揮し、「みんなを支えあう、誇りと希望に満ちた郷」となるよう今後も地域一丸となって取り組んでいきます。

「生活スタイル」の変化が「野菜需要」を変える！



加工業務用として契約生産されるリーフレタス(南砺市内)

『加工業務用』と『家計消費用』

生鮮野菜の用途は、大まかに『加工業務用』と『家計消費用』に分けることができます。『加工業務用』野菜とは、工業者や外食・中食関係者などが使用する野菜であり、『家計消費用』野菜とは、一般家庭で購入する野菜や農家の自給野菜などをさします。

進展する食の外部的

近年、「単身世帯」「共稼ぎ世帯」「高齢世帯」の増加や、少子化・核家族化などに伴い、1世帯当たりの人員は減少傾向にあります。(表①)
加えて、食の簡便化志向が高まり、加工・調理食品の購入や外食など、食の外部化が進展し、逆に、生鮮食品の購入は減少しています。(図①)
このような状況に対応するため、食品スーパーなどでは、カットされた野菜やくだもの、下処理済みの魚など、一次加工された生鮮食品や惣菜売り場を拡充し、調理済み食品が多く販売されるようになりました。

増加傾向にある

『加工業務用』の野菜需要

一般家庭では、生鮮野菜の購入額が減少傾向にある一方で、サラダ等の加工調理品の購入額は増加傾向にあります。「野菜を自宅で調理して食べるより、調理したものを購入して食べたほうが、余計な野菜を買わなくて済むし、ゴミも少なく、楽である」と考える人も多くなっています。(図②)

特に、国内で流通する野菜は平成に入ってから5割以上が加工業務用に仕向けられ、平成22年には全体の6割程度に増加し、今後、さらに拡大するものと考えられます。(図③)

県内の『加工業務用』野菜の生産状況

富山県では、富山市婦中町の音川地区において、古くから大かぶが生産され、千枚漬げやかぶら寿司を製造販売する県内外の食品会社へ出荷されています。他にも、赤かぶやだいこん、水ナスなども漬物用原料として生産出荷されています。

近年では、加工業務用のたまねぎやキャベツ、レタス、にんにくなどを生産する農家も見られ、県内外の野菜加工業者等へ出荷され、野菜サラダや野菜ラーメン、黒にんにく等に使用され

ています。また、いみず野農協では、今年から特産の黒大豆枝豆をゆでて茨を取り除き、豆だけを急速冷凍して加工業務用として販売するようになりました。
このような取り組みは、近年、急速に拡大し、特に、生産者もしくは農協と加工業者(もしくは市場)とで作付前にあらかじめ値決めを行い、契約的に生産販売する事例が多くなっています。

『加工業務用』としての県産野菜・くだもの活用促進

富山県では平成22年6月に富山県加工業務用野菜等供給拡大推進協議会(会長/小林真一郎農林水産部参事)を設置し、県内の中食外食関係者に県産野菜・くだもの積極的な活用を推進しています。具体的には、実需者に対し県産野菜・くだもの旬や産地を紹介することもに、ホームページ『あぐリンク・とやま』<http://www.ag-link.jp/>を開設し、生産・出荷情報を発信しています。また、平成23年度から富山県産野菜果実活用拡大キャンペーンを実施。県内のホテル等宿泊施設や飲食店等に対し、県産を活用したメニューづくりを呼びかけ、賛同を得た店舗等を「とみベジ協力店」として紹介しています。

外食関係者のニーズへの対応

このような中、県内の西洋料理シエフからなる全日本司厨士協会富山県本部から、「周年、食材として欠かせないシャロット(ベルギーエシャロット)を県内で生産してほしい」と要望がありました。そのため、県では、平成22年からシャロットの試作に取り組み、今年度から初めて、黒部市と氷見市で生産されたシャロットを高岡市場が販売しました。また、国内流通するシャロット



県産野菜を試食する県内ホテルの料理長ら



協議会で中食・外食関係者に県産野菜をPR

変化する野菜需要への対応

これまで、野菜は高品質生産に加え、外観や揃いなど見た目が重視されてきました。しかし、加工業務用需要の高まりから、見た目よりも加工歩留まりや価格が重視される品目もみられるようになりました。

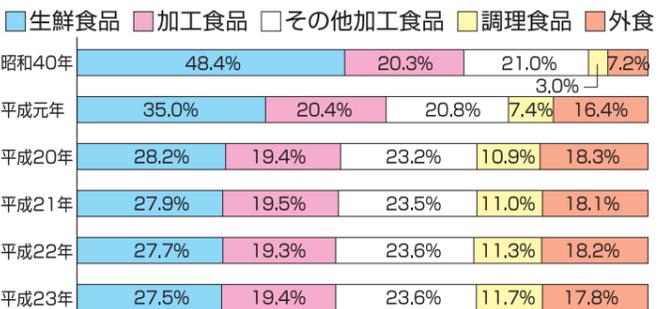
県内においても、加工業務用に大きなサイズのキャベツ生産や、出荷規格の簡素化、通いコンテナの活用等による流通コストの削減などの取り組みがみられるようになりました。また、食の多様化により、今まで栽培されてこなかったシャロットやチコリ、フェネル、ラズベリーなど、新たな品目も生産されるようになり、加工業務用野菜・くだもの等の生産は、県内至る所で広がっています。

今後、加工業務用への対応など、需要の変化に即した野菜・くだものを生産していく必要があります。



県内シエフの声に応じて今年から出荷が始まった「とやまシャロット」

図① 食料消費の用途別支出割合



資料:総務省「家計調査」

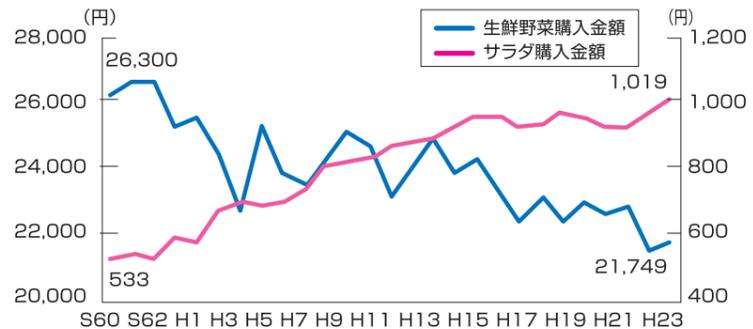
表① 世帯構成の変化

単位:万世帯、人、下段は総世帯に占める割合(%)

	2年度	12年度	17年度	22年度
①単身世帯	845 (21%)	1,099 (24%)	1,158 (25%)	1,239 (25%)
②高齢世帯	311 (8%)	626 (14%)	835 (18%)	1,012 (21%)
①共稼ぎ世帯	823 (20%)	924 (21%)	988 (21%)	1,012 (21%)
総世帯数	4,027	4,555	4,704	4,864
世帯人数	3.05	2.76	2.68	2.59

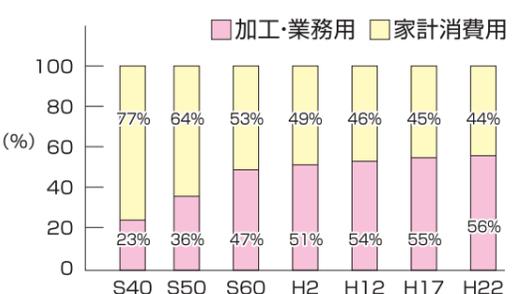
資料:①及び②は厚生労働省「国民生活基礎調査」、③は内閣府「男女共同参画白書」

図② 家計消費における購入形態の変化



資料:総務省「家計調査」

図③ 国内流通する野菜における、加工・業務用と家計消費の割合の推移



資料:農林水産政策研究所

有機農業の里づくり

生活雑排水の入らない清らかな湧き水とたい肥などの有機質肥料や米ぬかペレットを使って水稻を栽培・生産しています(平成25年は100アール栽培)。

水田のとなりには、ビオトープを設置し、春先のまだ冷たい水を一旦ためおきし、少し暖まってから水田へ入水します。田植え後の苗の成長に大変役立っています。

平成25年5月には環境にやさしい農業の活動が認められ、県知事から水稻とソバのエコファーマーに認定されました。

※米ぬかペレット

プロジェクトに参加する企業の協力を得て製造し、田植え後に水田に散布します。これにより雑草の発芽や生育が抑えられ、稲が元気に育ちます。



農地保全・復元

高齢化や離農等によって放棄されたり、荒廃しつつある集落内の不作付地を、もう一度農地として活用できるようにするため、プロジェクト関係者や地元住民らとともに草刈や復元作業に汗を流しています!



若者アスリートの定住支援

桐谷では、NPO法人の支援を受けながら、トレーニングと農業の両立を目指す「アスリートファーム」が活動しています。アスリート達は桐谷の地に定住・半定住し、集落の活性化に大きく貢献しています!



農園体験ツアーなどの交流

田植えや農作物の収穫などの農園体験ツアーを企画・広報して、都市部住民や桐谷農産物ファンとの交流会を開催しています! また、東日本大震災被災者の復興支援親子リフレッシュ活動にも取り組んでいます。昨年は福島県から19人の親子を桐谷へ招待し、農業体験や花火大会など、楽しいひとときを過ごしました。



桐谷農産物のブランド化活動

「豊かな水と緑の里・きりたに」をイメージしたロゴマークを作成し、桐谷産農産物の販売・促進・ブランド化などに広く活用しています!

中山間地域チャレンジ支援事業

NPO法人 アイ・フィール・ファインの「有機農業の里づくり」プロジェクト

久婦須川上流の岐阜県境の中山間地域に位置する『桐谷集落』でNPO法人アイ・フィール・ファインが、集落住民・企業・農業高校等と連携・協力しながら、水稻やそば、野菜などを化学肥料や化学合成農薬を使用せずに栽培する「有機農業の里づくり」活動を展開しています。本年5月にはエコファーマーに認定されるとともに、有機JAS認証の取得もめざしています。

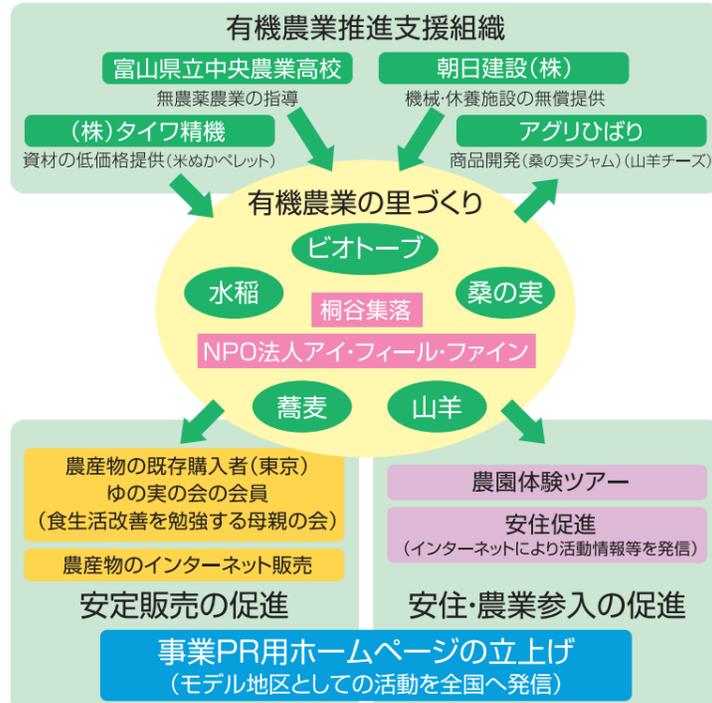
さらに、「中山間地域チャレンジ支援事業(県単)」を活用し、集落の農地保全や農園体験ツアー、桐谷産農産物のブランド化、若者達の定住支援などにも取り組んでいます。

中山間地域チャレンジ支援事業とは?

中山間地域において、集落が集落内外の企業や団体などと連携して行うさまざまな地域活性化活動(特産品の開発・伝統文化の継承・高齢者見回り支援・定住促進など)に対して、県単独で支援する事業です。



有機農業の里づくりを実現するための連携・支援団体と役割



NPO法人 アイ・フィール・ファイン

平成16年10月に団塊の世代が中心となり、高齢者が健康で快適な自立した生活を送るための環境と仕組みを提供し、文化活動や支援活動を通して地域の活性化と社会の福祉増進を図ることなどを目的に設立されました。

同年11月には、小さな農地面積でも農業に参入できる「越中八尾スロータウン特区」制度を活用し桐谷集落で、農作物の生産や加工・販売をスタート。現在、地域農業の担い手として、また、農村文化の継承者として活躍しています。



ツインドーム前に設置した「有機農業の里づくり」看板

県の支援制度

6次産業化モデル育成事業

農林漁業者が経営の多角化や収益性の向上を目指して行う6次産業化に向けた取組み（新商品開発、販路開拓、加工機材整備等）を支援

対象者:6次産業化に取り組む農林漁業者（個人〔認定農業者〕又は団体）
 *認定農業者とは、農業経営基盤強化促進法に基づいて認定された農業者です。
 *団体については、法人格の有無を問いません。

補助率等:補助率1/2(補助金上限額250万円)



がんばる女性起業発展支援事業

(1)農村女性起業チャレンジ事業

新たな商品開発やサービスの確立に対する取組みを支援

対象者:農村女性起業活動を行う個人、法人または任意組織
補助率等:補助率1/2(補助金上限額40万円)

(2)農村女性起業拡大支援事業

起業組織が自主的に取り組む事業拡大に必要な調査等の活動経費や直売所の整備、加工機器の導入等を支援

対象者:農村女性起業活動を行う法人または任意組織、個人(認定農業者)
補助率等:補助率1/2(補助金上限額100万円)

(3)農村女性先進モデル企業育成事業

起業から企業への発展をめざした商品構成の拡大、販売力の強化等の取組みを総合的に支援

対象者:農村女性起業活動を行う法人または任意組織
補助率等:1年目 補助率1/2(補助金上限額100万円)
 2年目 補助率1/2(補助金上限額25万円)

○ 専門家によるサポート

加工組織等の要請に応じて専門家を派遣し、助言・指導を行い、完成度の高い商品開発を支援



取組事例



しょうりゅうばい
昇龍梅ドリンク 氷見稲積梅株式会社
 氷見市の特産品「稲積梅」の青梅エキスを使用。



さんろく
立山三六そば 立山町そば推進協議会
 立山町の緯度「北緯36度」と「山麓」をかけて命名。

応援します!! 農山漁村の6次産業化

6次産業化とは? …… 1次×2次×3次=6次産業化

「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者(1次産業従事者)が、自ら加工(2次産業)や販売・サービス(3次産業)に取り組む、経営の多角化、複合化を進めることで、所得の向上や農山漁村における雇用の創出・確保を目指すことです。

農山漁村に由来する 様々な地域資源

●農林水産物



●バイオマス

・稲わら
 ・食品廃棄物
 ・未利用間伐材



●経験・知恵

●自然エネルギー

●風景

●伝統文化等

地域資源の有効活用

農山漁村の地域資源を 活用し新たな事業に 取り組もうとする産業

食品産業、観光産業、IT産業、
化粧品・医薬品製造業、
エネルギー産業等



農山漁村の6次産業化

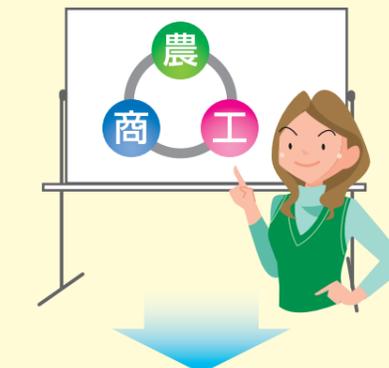
●生産・加工・流通(販売)の一体化による付加価値の拡大

農林漁業者による加工・販売分野の
取組み(多角化、複合化等)、地産地消等



●農林漁業と2次・3次産業との連携・融合による地域ビジネスの展開や新たな産業の創出

地域資源を活用した新事業の創出
農商工連携の推進等



新たな付加価値を創出

雇用の確保と所得の向上による
農山漁村の再生・活性化

カモ親子の農村日記

ふるさとを創る
土地改良施設を水辺から
眺めたお話



散居の景観を巡る 庄西用水の水路網

(砺波市・高岡市・小矢部市)



庄西用水土地改良区用水系統図



大地を潤す4水路
庄西用水土地改良区は、砺波市庄川町金屋付近を頂とする砺波平野扇状地のうち二級河川庄川左岸の北東部に位置する約5,000ヘクタールもの広大な耕地を潤す幹線水路を維持管理しています。

これらの水路は、幾多の曲折を経て、昭和14年に完成した「庄川用水合口堰堤」(平成16年国の登録有形文化財)に登録から取水し、千保柳瀬口用水、舟戸



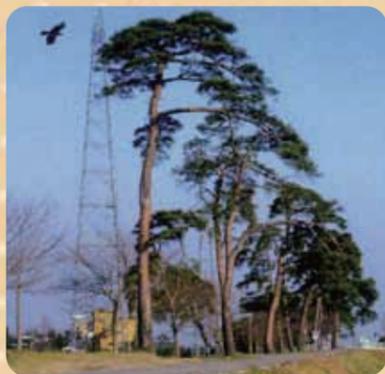
チューリップ公園内の池

加賀藩の治水工事とその後

かつての庄川は、砺波平野を幾筋にも分かれ、洪水のたびに移動しながら流れていました。1586年に起きた天正の大地震で川筋を東へ大きく移し、今の庄川が流れているあたりに流れの中心が移っていきましたが、治水上、不安定な状態は続いていました。

加賀藩三代藩主前田利常は、砺波平野全体を水害から守り、庄川扇状地の新田開発を進めるとともに、下流部で造営が進められていた瑞龍寺への浸水防止を図るうえからも庄川河道を固定化するため、庄川扇頂部の弁財天前で、俗に「松川除(まつかわよけ)」と呼ばれる大堤防の築造に着手し、一連の工事は幕末まで続きました。

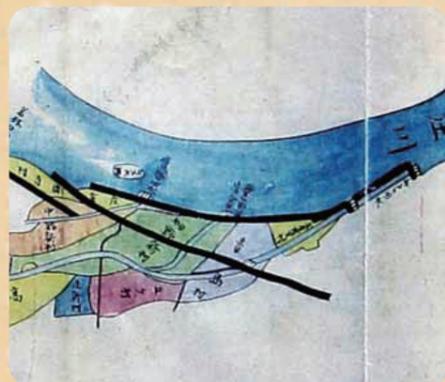
これにより、扇状地内の農民たちは自然流を用水路に改修し、川筋に開田を進めていきました。こうした新田開発は、今でも「○○新」や「○○田」などの地名として名残をのこっています。



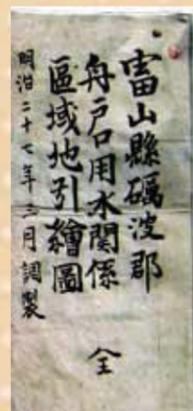
松川除の前堰(まえげき)。堰の根固めとして松の木、数百本が植えられました。



若林口用水旧取入堰の一部(昭和11年)



舟戸口用水旧取入れ口付近図(入道忠靖氏所蔵)

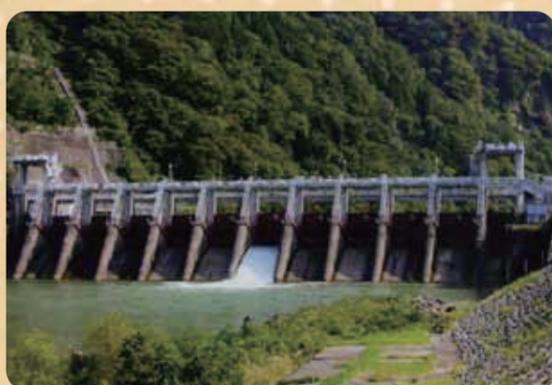


その後の農業用水は、用水毎に、庄川本川に蛇かごなどで川を堰止めて取水していたものの、石積み等で作られた水路では漏水が激しく、下流までの送水が困難な状況が昭和初期まで続きました。

用排水路網の整備と次代への継承

昭和14年に「庄川用水合口堰堤」が完成しましたが、各用水路は未整備のままでした。しかし、戦後、経済の復興期に入ると、当改良区内においても県営かんがい排水事業等により近代的な農業用排水施設の整備が順次進められたことにより、農業用水の安定確保、維持管理に要する労力と経費の軽減が図られました。

近年、流域の都市化が進み、排水の流出形態が変化し、豪雨時に農地や農作物、住民生活に溢水湛水被害を生じさせています。こうした状況を改善するため、地区内の排水機能を回復させるため、国営総合農地防災事業「庄川左岸地区」が平成21年度に着手しました。



庄川用水合口堰堤

土地改良広辞苑

登録有形文化財

従来の文化財指定制度に加えて、よりゆるやかな規制のもとで保護を図るために設けられた文化財保護制度に基づいて登録された有形文化財。

蛇かご

鉄線や、古くは竹などで粗く円筒形に編んだかごに石を詰めしたもの。河川の水流制御や護岸などに使われた。

基幹水利施設

ストックマネジメント事業

老朽化が進んだ既存水路等について、現状に応じた工法(更新補強補修)により、コストを抑え、施設の長寿命化と有効活用を図り、機能を保全していく事業。

併せて、築造後50年以上が経過し、長年の流水による摩耗や漏水等が進んでいる既存水路の補修を目的とする県営基幹水利施設ストックマネジメント事業「庄西一期地区」も昨年度から始まったところです。

このようにして、先人の労苦の結晶である、この地に張り巡らされた用排水路網が維持されてこそ「カイン」と呼ばれる屋敷林に囲まれた農家が点在する美しい景観もまた次代に引き継がれていくことができます。

越中とやま 食の王国フェスタ 秋の陣

もっと近くなる、
「おいしいとやまの食」



日時 **10/26 土・27 日**
10:00~16:00

場所 **富山産業展示館(テクノホール)**
※JR富山駅北口より無料シャトルバス運行

セントラルキッチン

NHK 富山

ふたりの食 ひとりの食

富山フェスティバル

NHK「きょうの料理」でおなじみ渡辺あきこ先生による料理実演です。
(27日(日)実施予定)



「とやま食の匠・創作の匠」料理実演

「とやま食の匠」に認定されている料理人らが県産食材を使って腕を振ります。



「クイズ 新・感・鮮!」

地産地消や新鮮な食など、身近なとやまの食について楽しみながら学ぶ参加型クイズショー。
(26日(土)・27日(日)両日実施予定)

その他

KNBラジオタイアップ企画
大ジャンケン大会
チャリティオークション



王国うまいもん市場

県内全域からイチオシの特産品が大集合!

- ます寿し
- かぶら寿し
- みょうが寿し
- はちみつ
- 米粉パン
- りんご
- 里芋
- 漬物
- ワイン
- ほか

とれたて!マルシェ

「軽トラ」で旬の野菜を大量販売。畑と食卓が直結するボリュームたっぷりの迫力と楽しさあふれる内容です。

越中ラーメン村

県内の「カラーラーメン」や屋台ラーメンなど人気のご当地ラーメンが集合。会場屋外ブースに登場!

食の体験ステーション

富山の特産品にふれる、体験イベントが盛りだくさん。つくった料理はその場で試食!ふるさとの味が堪能できます。
※当日先着順

王国グルメ&スイーツ

県内名店の料理人が富山の食材を使ったグルメを考案し限定販売。バラエティに富んだ「富山ならではの」味が味わえます。

あったらいいな!創作駅弁

北陸新幹線開業に向けて、駅弁風の創作弁当を会場限定販売!

取組み紹介

富山の優れた食材や商品を紹介します。富山県推奨とやまブランド、Eマーク商品の紹介 など



【主催】越中とやま食の王国フェスタ実行委員会

(富山県、富山市、黒部市、富山県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会富山県本部、富山県漁業協同組合連合会、富山県森林組合連合会、(一社)富山県食品産業協会ほか)

【併催】第51回富山県農林漁業祭、第37回富山県米まつり、第43回富山県花き品評会、その他関連事業

おいしさキトキト とやま産

広がる、地産地消運動!

食に対する関心が高まるなか、富山県では、「県民ぐるみで県産品を大きく育てる地産地消運動」を推進しています。

地産地消県民交流フェア2013

平成25年7月7日(日)、親水広場(富岩運河環水公園東側広場)で、「地産地消県民交流フェア2013」が開催されました。この催しは、地産地消の意義や、富山が誇る素晴らしい食材、食文化について理解を深め、県民の皆さんと共に地産地消運動を広げることを目的に、毎年開催されています。

この日は朝から曇り空で昼頃には突然の雨に見舞われたにも関わらず、約1万人の来場者で賑わいました。会場では県内各地の生産者や農業団体、製造業者など28団体が出店。旬の野菜や特産加工品の販売や地域資源を活用した新商品が紹介されました。また、ステージでは、料理人・森野熊八さんのトークショーのほか、地産地消クイズなどがありました。



石井知事によるテープカット



約1万人が来場



きときと君も来てくれました!



「とやま食育ちんどんソング」を踊る子どもたち

ステージイベント

テーマ 富山を味わう

ゲスト 森野 熊八氏(料理人)



神奈川県出身。「料理の作り方を歌詞にして、歌いながら料理を作る」という独自のパフォーマンスで人気を博す料理人。料理に対する独自の視点とアイデア、その軽妙なトークで数多くのテレビやラジオ番組で活躍中

「山がある。海がある。自然がいい。水もいい。だから、何でもうまいよね!」と富山を絶賛する熊八さん。特に印象的だったのは「富山の野菜はこんなにうまいのに、みんな当たり前すぎて気づいてないんじゃないかな? 富山の人は幸せです」という言葉でした。このほか、たっぷりの夏野菜を豆乳で煮込むアジアカレー、玉ねぎのドレッシングで玉ねぎをいただく食べ方は、とても参考になりました。

トークの途中急に雨が振り出した際、「屋根の下へ避難してください。風邪ひかないようにね」と来場者の皆さんへの気遣いも見せてくださった熊八さん、明るい笑顔と楽しいトーク、ごちそうさまでした!



農産物販売&地域資源等新商品展示・販売



試食を通じて生産者とコミュニケーションをとる姿があちこちで見られました。



雨の中、多くの方にご来場いただきました。



真っ赤に熟した旬のトマトは生産者の自信作です。

● INFORMATION

富山県農村振興技術連盟写真展のご案内

農業農村整備事業の役割と県内の関係技術者の取り組み状況等を広く知っていただくための写真展を開催します。日頃、皆さんが目にするのが少ない写真も数多く展示しますので、この機会にぜひご覧ください。

※県民会館で展示の際には、印象に残った写真に投票してもらう取り組みも予定しています。

※平成24年度から、作品の一般募集は行わないこととしました。

● 展示日程・会場(予定)

県民会館ギャラリーC

平成26年1月31日(金)～2月2日(日)

富山総合庁舎

平成26年2月3日(月)～2月7日(金)

魚津総合庁舎

平成26年2月10日(月)～2月14日(金)

高岡総合庁舎

平成26年2月17日(火)～2月21日(金)

となみ散居村ミュージアム

平成26年2月22日(土)～3月2日(日)

富山県土地改良団体連合会

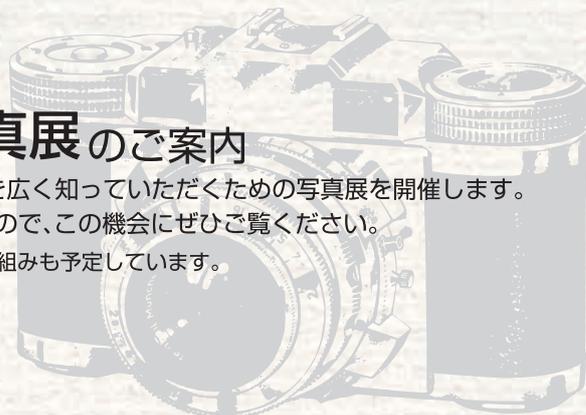
平成26年3月3日(月)～3月7日(金)

● 展示内容

農業農村整備事業の役割や農業土木技術の紹介

用排水路、ダム、ため池、頭首工、ほ場整備された水田など、農業農村整備事業によって整備された施設や工事中の現場、地域の財産として守り受け継がれている歴史的な施設など

みやぎの農業・農村 復旧復興パネル(展示は県民会館ギャラリーCのみ)



● 表紙の写真

シクラメンや葉ボタン、ハーブ苗などの花き、玉ねぎや人参などの野菜、水稻や大豆の種子生産、このほかハーブを使ったお料理やアロマテラピー、寄せ植えなどのカルチャー教室も開いている梅香園。代表の梅本さんご夫妻は、「農業がやりたい!」と飛び込んできてくれた若い社員たちと一緒に、毎日忙しく働いています。

「目指しているのは『観光農園』」と話すのはご主人の英孝さん。ハウスで花を眺めたり、いちご狩りをしたり、カフェではいちごのスイーツや人参のスムージーなどが楽しめる場所にしたいと準備を進めているところだ。

「かみさんのハーブ料理は最高!」と英孝さんが絶賛するほどの腕前を持つ奥様の恵子さんは、ハーブコーディネーター、

Jr野菜ソムリエ、米粉食品指導員などいくつかの資格をお客様とのコミュニケーションに活かしたいと考えています。

梅香園の花や農産物は「となみ野の郷」で、アロマ製品は道の駅「庄川」で購入できるほか、年に4回は温室を開放して直売イベントが行われています。

(有)梅香園

〒932-0316 富山県砺波市庄川町天正408番地

TEL 0763-82-7021 FAX 0763-82-3705

梅本 英孝さん 恵子さん



□本誌に関するご要望、ご意見等をお寄せください。氏名、年齢、職業のご記入をお忘れなく。個人情報については、内容確認以外に使用いたしません。

□本誌の内容が富山県ホームページでもご覧になれます。 <http://www.pref.toyama.jp/> ふるさと夢とやま 検索

第32号 平成25年10月

この冊子は、富山県農村環境創造基金ならびに富山県棚田地域水と土保全基金で発行されています。

発行



富山県

富山県農林水産部農村振興課

〒939-8501 富山県総曲輪1番7号

TEL 076-444-3381 FAX 076-444-4427

富山県農村環境創造基金 <http://www.pref.toyama.jp/sections/1605/houkan/index.html>

とやま棚田ネットワーク <http://www.nn-toyama.jp/tanada/tanada.htm>

編集



水土里ネット富山

〒939-8214 富山県富山市黒崎17番地

TEL 076-424-3300(代) FAX 076-424-3332

<http://www.tomidoren.jp>